

## 佐賀の果樹9月号(病虫害防除)

<果樹類共通>

### 果樹カメムシ類

今年はカメムシ類の発生が多く、果樹園への飛来時期も早くなると予想されています。定期的に園内を確認し、飛来を確認したら早急に薬剤防除を行ってください。また、チャバネアオカメムシやツヤアオカメムシだけでなく、イネ科雑草で増殖したクモヘリカメムシ等が飛来して加害することもあるので、園内外のイネ科雑草は出穂前に除草してください。

カメムシ類の誘殺状況等は農業技術防除センターのホームページに掲載されていますが、飛来状況は園によって大きく異なります。自分の園をしっかりと観察し、カメムシ類の飛来を確認したらすぐに対応できるように準備を行ってください。

<露地カンキツ>

### 果実腐敗（緑かび病等）

果実腐敗対策には薬剤防除も重要ですが、病原菌が傷口から侵入しないよう、果実に傷をつけないようにすることが最も重要です。収穫時には果実にハサミ傷などをつけることのないよう、丁寧に扱ってください。また、コンテナいっばいに果実を詰め込んだり、枝が入ったりすると傷の原因となりますので注意してください。

薬剤は、収穫7～10日前に① [ベンレート水和剤4,000倍とベフラン液剤25 2,000倍の混用]、② [トップジンM水和剤2,000倍とベフラン液剤25 2,000倍の混用]、③ [ベフトップジンフロアブル1,500倍]の中から一つを選び、散布します。①又は②を選択した場合は、トップジンM水和剤またはベンレート水和剤を先に溶かし、ベフラン液剤25を後で溶かしてください。逆の順番で溶かすと、沈殿が生じてしまいます。

薬液が霧状になるノズルを使って果実一つ一つを薬液で包み込むように丁寧に散布してください。詳細は今月号の特集記事(P〇～〇)を参照してください。

### 褐色腐敗病

枝つりを実施して土壌中の菌が雨滴の跳ね返りなどで果実に付着しないようにするとともに、発病した果実は早急に除去し、園外で土中に埋めるなど適切に処分してください。毎年発生が問題となる園ではジマンダイセン（ベンコゼブ）水和剤（温州ミカンは400倍で収穫30日前まで、その他のカンキツ類では600倍で収穫90日前まで）またはクレフノン200倍加用リドミル銅水和剤750倍（温州ミカンは収穫14日前まで、その他のカンキツ類は使用不可）を散布します。8月

下旬の散布を行っていない圃場では、早急に散布してください。ただし、マンゼブ水和剤の使用回数は4回以内となっていますので、黒点病の防除でジマンダイセン水和剤(ペンコゼブ水和剤)を使用している場合には、使用回数に注意して回数が超過しないようにしてください。

もし、収穫間近になって発生が見られる場合には、アリエッティ水和剤400倍やランマンフロアブル2,000倍、レーバスフロアブル2,000倍(いずれも収穫前日まで使用可)等のいずれかを散布して対応してください。なお、アリエッティ水和剤を高温時に散布すると日焼け果の発生を助長する場合がありますので高温時には使用しないようにしてください。

#### かいよう病

コサイド3000 2,000倍(クレフノン200倍加用)等の銅水和剤を散布します。前回散布からの累積降雨量150~200mmもしくは散布後日数20~25日のいずれか早い方を目安に散布を行ってください。台風の襲来が予想される場合には、台風襲来後の防除では効果が劣るので、台風襲来1~7日前に散布してください。

#### アザミウマ類

チャノキイロアザミウマに対して8月中旬以降に薬剤散布をしていない園では、9月上旬にベストガード水溶剤1,000倍、モスピランSL液剤2,000倍やコテツフロアブル4,000倍等を散布してください。

また、今年は梅雨明け以降高温・乾燥が続いているため、ハナアザミウマ類の密度が高まり、着色始期以降に果実被害が多発する恐れがあります。ハナアザミウマ類は果実と果実、果実と葉が接している部分などに多く寄生して加害しますので、そのような場所での被害を確認したら早急にスピノエースフロアブル4,000倍やハチハチフロアブル2,000倍等を散布します。植物の花に集まり増殖して果実へ飛来するため、園の中や近くには着色時期に花が咲くような植物(特にキク科植物)を植えないようにするとともに、園内外に生えている雑草(特にセイタカアワダチソウ等)は開花前に除草してください。

#### ミカンハダニ、ミカンサビダニ

ミカンハダニに薬剤散布をする場合は、抵抗性の発達を回避するため、前年及び本年中に使用した殺ダニ剤は使用しないでください。

また、近年ミカンサビダニの被害が遅くまで発生することがあるため、9月以降にミカンサビダニによる新しい被害果実の発生が確認された場合には早急に防除をおこなってください。散布薬剤は表を参照してください。

対象害虫		薬剤	希釈倍数
ミカンハダニ		コロマイト水和剤	2,000倍
		カネマイトフロアブル	1,000倍
		スターマイトフロアブル	2,000倍
		ダニコングフロアブル	2,000倍
ミカンハダニ	+ ミカンサビダニ	ダニエモンフロアブル	4,000倍
		バロックフロアブル	2,000倍
		ダニゲッターフロアブル	2,000倍
		スターマイトプラスフロアブル	1,000倍
		ダブルフェースフロアブル	2,000倍
ミカンサビダニ		サンマイト水和剤	3,000倍
		ダニカット乳剤20	1,000倍
		マイトコーネフロアブル	1,000倍

<ナシ>

### 黒星病・炭そ病

‘新高’などの晩生品種が混植されている園では、アミスター10フロアブル1,000倍等を散布してください。

収穫が終了した園では、デランフロアブル1,000倍等を散布してください。ただし、周囲に収穫が終了していない園があれば、収穫前の果実に農薬が飛散しないように注意してください。

### 害虫類

収穫後でも園内を確認して、ハダニが発生している場合はコロマイト水和剤2,000倍、カネマイトフロアブル1,000倍等を散布して発生初期の防除を徹底します。フタモンマダラメイガが問題となるところでは、フェニックスフロアブル4,000倍を散布します。薬剤は十分量を、枝幹部を中心に散布します。加えて、虫糞が出ている部分を中心に粗皮を剥いで幼虫を捕殺しますが、削りすぎると再度寄生して被害が多発するため、削りすぎないように注意してください。

<ブドウ>

### べと病

翌年への伝染源を減らすため、収穫後にもICボルドー66D 50倍、ICボルドー48Q 50倍のいずれかを散布します。いずれの薬剤もアビオンE 1,000倍の加用で防除効果、耐雨性が高まります。

<モモ、スモモ>

### せん孔細菌病(モモ)・黒斑病(スモモ)

秋季の感染を防ぐため、9月上旬から10月上旬頃にかけて薬剤を散布します。モモはICボルドー66D 50倍もしくはICボルドー412 30倍を散布します。スモモはICボルドー412 30倍を散布します。特に台風の襲来など強風雨の場合に感染が助長されるため、襲来前の防除を徹底してください。

<キウイフルーツ>

#### クワシロカイガラムシ

9月中下旬頃が3回目の幼虫発生時期となりますので、アプロード水和剤1,000倍やモスピラン顆粒水溶剤2,000倍等を散布してください。ただし、一部品種では使用できる薬剤に制限があるため、暦等を確認して薬剤を使用してください。

<カキ>

#### 炭そ病

収穫前に雨が多い場合は果実に多発します。また、台風が通過した後にも発生が多くなるので、台風の襲来前後には必ず防除を行ってください。

炭そ病が発生した枝等は必ず剪除するとともに、ストロビードライフフロアブル3,000倍（収穫14日前まで）やナリアWDG2,000倍（収穫前日まで）、オンリーワンフロアブル2,000倍（収穫前日まで）等を樹冠上部まできちんとかかるように散布してください。